

54 「初学人身窮理」松山棟庵・森下岩

楠 訳本のオリジナル本について

島 田 和 幸

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科

神経病学講座歯科応用解剖学分野

松山棟庵と森下岩楠の二名による翻訳で明治六年三月に慶応義塾出版から発刊された人体構造機能ならびに健康衛生概念について学童を対象に述べられた『初学人身窮理』の原本に関する調査結果である。

本書の凡例の中に原本は「亜国の大医カトル氏」と記載されている。三浦（一九七四）の報告の中に本書の原本に関する疑問が述べられている。三浦は原著者であるカトルに興味をいだき阿知波に教示を乞うたところ「札幌農学校の生理学の教師として一八七八年来日し、一八八七年に帰国した John C. Cutter である」との回答であったと述べている。しかし、三浦は今回の書の初版本の出版年度から察して原本はさら

に早く出版されていたと推察し、Cutter の年齢から推察して、二〇歳前の書物であることから『初学人身窮理』の著者として疑問をなげかけている。その後、三浦による詳細な報告もないことから今回原本とはどのような書であったのかについて調査を試みた。そこでまず、これまで原本だと考えられていた John C. Cutter の著書である①“Comprehensive Anatomy, Physiology, and Hygiene, adapted for School, Academies, Colleges, and Families.” (Lippincott, 3rd ed. 1884) にこつて目次、記載内容等を検討してみたが、全く異なっており、別の書であることが判明した。そこで、Cutter 姓のこの年代の著書について検索を行ってみたところ Calvin Cutter の二冊の書にいきつき、それらの著書について検索を進めてみた。まず②“A Treatise on Anatomy, Physiology and Hygiene. Designed for College, Academies, and Families” (Lippincott 1852) にこつて同様な調査を行ってみると『初学人身窮理』の記載目次順や記載図に比較的多くの一致点を認める事が出来たが、ただ記述説明文等がかなり詳細に記載されてお

りかなりの箇所で原文と訳文との違いをも認めた。そこで、この書のダイジェスト版ともいえる③“First Book on Anatomy, Physiology, and Hygiene. For Grammar Schools and Families” (Lippincott 1854) についで同様な検討を行ってみたところ記述文や図について全文翻訳ではないにしても原文と訳文等では完全な一致を見る事ができた。さらに、同じカットル氏からの翻訳本とされる伊藤正信訳述『喝氏初学人身窮理』東洋館蔵版、明治一四年一二月出版と『初学人身窮理』についてそれぞれ内容記載等を比較したところ訳語に少しの違いは認められるもののその内容及び引用図等の一致からこの二書が共に同じ原本からの訳本であることが判明した。そのことから、伊藤正信訳述『喝氏初学人身窮理』東洋館蔵版書の例言の中に「フォレストブック、オン、アナトミー、フヒシヨロジー、エント、ハイジン」による記述がなされていることや、各原本との対比を総合的に見てみると『初学人身窮理』の原本は③であると今回判定した。

さらに、今回の調査より札幌に来日した Calvin

Cutter氏は John C. Cutterの父親にあたり、米国で伝導医師として多くの学童達に医学教育を施していた人物であることも判明した。